

令和元年 8 月 28 日

令和元年度 夏季休業明け集会 校長あいさつ

夏休みが終わりました。大きな事故もなく、皆さんが再び学校に戻って来ることができたことを大変うれしく思います。

毎年夏になると、広島、長崎のことに思いを馳せます。令和新時代、そして戦後 74 年を迎え、かつての戦争を経験した皆さんがどんどん減っていく時代となっています。戦時中であっても、例えば映画『この世界の片隅に』で描かれるような日々の暮らしがあったわけですが、私たちはその時代を経て日々の生活を送ることができている、平和な時代を生きているという事実を、改めて思い返す必要があると思います。毎年の夏は、そのようなことを考えてみるよい機会となります。特に、2 年次生の皆さんは、これから沖縄への修学旅行が予定されています。事前準備をしっかりと、行事に臨んでください。

さて、この夏休みも皆さんに感謝することがたくさんありました。

先月末に市民会館で実施した学校説明会では、部活動の見学を含めると、1,600 名を超える皆さんの参加がありました。進行も含めて本校の紹介をしてくださった生徒の皆さん、自分たちの言葉でしっかりと取手一高の良さを伝えてくれました。また、準備に当たってくれた生徒の皆さん、そして猛暑にもかかわらず、会場の外で対応してくださった皆さん、大変ありがとうございました。皆さん一人一人が本校の誇りです。本当にありがとうございます。制服をきちんと着用した素晴らしい対応、お疲れ様でした。生徒指導主事の宮本先生からも毎回お話していただいています。制服は礼服、フォーマルなものです。これからも、皆さん一人一人に、素晴らしい制服の着こなしの継続をお願いします。

ところで、この夏休み、大変うれしい報告がありました。

夏休み前に、皆さんと全国大会出場壮行会を実施しましたが、ライフル射撃部が男子団体 5 位入賞、そして自転車競技部の 2 種目で、全国 2 位、そして 1 位優勝という素晴らしい結果を残してくれました。

まず、「チームスプリント」。これは 3 人でスタートし、1 周ごとに一人ずつ周回コースから離れ、最後の選手のゴールタイムで競う種目です。2 年次生の中島陽太君、続く 3 年次生の吉岡優太君、木村皆斗君が見事準優勝。うれしかったのは、中島君は 6 月に怪我をしていたにもかかわらず、全力を振り絞ってくれたこと。まさに「力耕」の実践です。

そして、木村君は、その後行われた「スクラッチ」で、全国一に輝きました。「スクラッチ」は、トラックを 8 キロ、24 周します。「短距離のロードレース」ともいわれ、レース途中での駆け引きも重要視されると聞いていました。

私は昨年 7 月に、地元の取手競輪場で行われた、県の自転車競技選手権大会で、各種自転車競技を初めて見ました。40 度を超える競技場内部の、大変劣悪な条件のもとで彼の走りは群を抜いていましたが、その経験があつてさえも、周りからのプレッシャーはどれほどのものがあつたのかを想像すると、なおさら今回の偉業がとてつもなく素晴らしいものだと感じます。

競技後、いばらき新聞は、彼の言葉として「先生や仲間、両親が自分のことのように喜んでくれた」と伝えてくれています。感謝の気持ちを忘れず「力耕」した姿をここにも見ることができ、大変うれしく思いました。改めて、皆さんと一緒にお祝いしたいと思います。本当におめでとう。9月の「いきいき茨城ゆめ国体」が最後の仕上げとなります。このままの調子で、素晴らしいパフォーマンスをお願いします。

話は変わりますが、これから季節は秋になります。日本に暮らしていると四季の変化をあらためて意識することはあまりないかもしれませんが、それが日本人独特の「感性」の土壤となっているように思います。この夏話題になっている映画『天気の子』の新海誠監督は、あるインタビューの中で、高校を出て上京するにあたり、「ふるさと長野を出るときに、(雲や山などを含めた)この風景を目に焼き付けておいた」と語っていますが、「感性」を考える上で、とても興味深く聞きました。そして、作品に登場する10代の主人公達には、彼ら独特の「時の流れ」のようなものがある、というような内容も併せて語っていました。

私は、校長室に「雁耕祭」で写真部の生徒さんが展示してくれていた、「路傍の花」の写真を飾っています。小さいながらも懸命に咲く命の素晴らしさをそこに感じるからです。そして、その写真を撮影してくれた生徒さんの「感性」に思いを馳せます。こういった点が、新海監督の述べる、独特の「時の流れ」の一つの表れだと考えています。

以前、野球部をはじめ、いろいろな部活動の試合を見たり、吹奏楽部の演奏を聴いたりしたときに知らず知らず涙が出てきた話をしました。どうしてこのように涙が出てくるのだろう、と今述べた内容を振り返って思い返すと、それは、皆さんの年代の時でしか出ない「オーラ」のようなものに圧倒されるからではないか、とあらためて思いました。

この年代特有の何か、それは“adolescence”とか“juvenile”と表現される、とても貴重なある時期にいる人間特有の「気」なのかもしれません。

皆さんに伝えたいことは、皆さん全員がそのようなとても貴重な時間のただ中にいる、ということです。そして、その中にいるということには当事者であるあなた達は気づいていないことのほうが多分多いのです。

私も、そして先生方もかつてその時期にいたのですが、もう過ぎ去った時間の方が長くなってしまいました。

先ほど述べた写真部の生徒さんのような「感性」を持っていたことがとても大事に思えてなりません。繰り返しになりますが、皆さんは今、その貴重な時間の中にいることを忘れないでください。

枕草子には、「秋は夕暮れ」とあるように、これからは夕暮れ時の空がとても美しいものに移ろいゆきます。学校帰りに見る夕焼けは、例えば新海監督の描く諸作品のように、自然の奥深さを感じさせてくれるものになるのではないのでしょうか。そして、それを見て感じる思いは、一人一人それぞれ違ってくるものと思います。そういった自分のなかから出てきた「感性」を大事にして、毎日を大切に、そして充実した日々になるように生活してください。これからの皆さんの取り組みに期待しています。